JANAMEF
Japan-North America Medical Exchange Foundation
news

Vol. 42
2014.9

■発行年月日／平成26年9月18日
■編集／事務局
■発行／公益財団法人日米医学医療交流財団
〒113-0033 東京都文京区本郷3-27-12-6F
TEL: 03-6801-9777 FAX: 03-6801-9778
E-mail: info@janamef.jp
URL: http://www.janamef.jp

巻頭 Essay

キャリア形成における留学の意義

――2013年日米医学医療交流セミナーを共催して

東京医科歯科大学国際交流センター教授
髙田 和生（たかだ かずき）

私が勤務する東京医科歯科大学は、2013年10月に、日米医学医療交流財団と「日米医学医療交流セミナー」を共催した。今回のセミナーでは、それまでの「講演+Q&A」という形式をとらず、卒前留学、卒後臨床留学、卒後研究留学の各部における講演の後に参加者による小グループ議論の場を設けた。小グループ議論には、講演者とともに、海外留学を経験した本学在校生/卒業生をファシリテータとして配備した。

グループ議論のテーマは、「長期的キャリア形成における、卒前留学、卒後臨床留学、卒後研究留学それぞれの意義と課題」とした。私は本学で、毎年8人程度派遣されるハーバード医学校での臨床実習の派遣前教育を担当している。私自身米国で臨床研修を受けたこともあり、在学生および卒業生より海外留学の相談を多く受ける。その際、私は彼らに必ず問う。「将来のキャリアビジョンは何なのか、そしてそのために留学がどのような意義を持つのか……」。

例えば、「今USMLEの勉強をしています。米国で内科系の臨床研修をして、将来はアカデミアに身を置き、教育・診療・研究をやりたいです」という学生がいたとする。米国の臨床研修では、優れた臨床能力と教育能力が獲得できる。しかし、日本と海外のどちらかにかかわらずこの学生が将来アカデミアで生き残るには、研究で実績を積み重ねていく必要がある。「専門内科研修（いわゆるfellowship）期間中に研究をして実績をあげます」と考えるかもしれないが、研究実績がない場合は米国の一流研究教育機関のfellowshipに受け入れられる可能性はほとんどない。また、fellowshipの間に研究をかじった程度では、数少ない有給ポジションに様々な国から応募してくる多数の研究者にはかなわない。日本に帰るとしても、大学院で地道に研究実績をあげている研究者には及ばない。そのため、帰国後結局日本の大学院に一から入り直した人間を何人も見てきた。そう考えると、もしかしたら一番の近道は、在学生であれば、MD-PhDプログラムに進み、プログラム卒業後に渡米することなのかもしれない……。

海外留学は、スキルアップのため、キャリアアップのため、そして人間としての幅を広げるために、とても有効な手段となりうる。私自身、大学2年の春、大学5年の春、そして卒業後の臨床研修と、複数回留学しており、それらなくして今の自分はあり得なかった。しかし、特に卒業後の海外留学には多大な労力とともにお金と時間がかかる。Steve Jobsが言ったように、私も、”dots will connect”（ビジョンやキャリアプランを持ち、そのとき最良だと思うキャリア選択をし続ければ、いずれそれらはつながり、素晴らしいキャリアを作り上げる）を信じる。理解しなければならないのは、留学はあくまで手段であり、目的ではないということである。明確な目的（ビジョンやキャリアプラン）を持ち、その達成のために最も効果的な手段を最良のタイミングで利用するべきである。だからこそ、留学やキャリア構築に関する情報を効率よく集め、そして留学経験者や同じ目的を共有する者たちと、目的に対する手段の有効性、つまり「長期的キャリア形成における留学の意義」を、深く、じっくり考えることが大切だと考える。2013年度のセミナーが、そのための機会になったならば幸いである。

米国NIHにて膠原病内科臨床研修時代の筆者

髙田和生氏　主な略歴：
1994年　九州大学医学部卒業
同　年　横須賀米海軍病院インターン
1995年　亀田総合病院レジデント
1996年　ベス・イスラエル・メディカル・センター内科研修医
1999年　米国国立衛生研究所膠原病内科研修医
2003年　東京医医科歯科大学膠原病・リウマチ内科助手
2006年　同　講師
2010年　東京医科歯科大学医歯学融合教育支援センター准教授
2012年　東京医科歯科大学国際交流センターグローバルキャリア支援室長・教授
医学博士、Master of Health Science in Clinical Research（デューク大学）

【専門医/学会】
日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、米国内科専門医、米国膠原病内科専門医、Fellow of American College of Physicians, Fellow of American College of Rheumatology

財団25周年に寄せて

公益財団法人日米医学医療交流財団理事長
名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学教授
伴　信太郎

日米医学医療交流財団は昨年25周年を迎え、記念会が国際文化会館で行われました。この間に山あり谷ありの紆余曲折を経てきましたが、皆様のご支援のお陰で何とかこの日を迎えることができました。今日のグローバル化した社会においては、日米医学医療交流財団のような公的な性格をもった、国際的な架け橋に貢献する財団の役割は益々大きくなってきていると思います。

今日の日本の世界における立ち位置については、その金銭的な貢献に比して余りにも人的貢献が乏しいということについては異論のないところでしょう。言葉を変えて言えば、世界レベルで活躍している日本人が少な過ぎるということです。その原因の一つは、日本が島国で、世界に出ていくには地理的・言語的に大きな障壁があることです。それを乗り越えるためには、まず一度海外で生活してみることが第一歩として必要となるでしょう。日米医学医療交流財団はヘルスケア領域に限定はされるものの、医師・看護師・歯科医師・薬剤師・臨床検査技師などの海外留学の助成をして、そのような一歩を踏み出す後押しをしてきました。助成を受けた人の多くは、今は財団のフェローとして財団の支援に回っていただいています。

今回の記念会の目玉は、日野原重明先生という半世紀にわたって日本の医学・医療の変革を唱えてこられたカリスマと、米国医学教育の伝道者として人気の高い赤津晴子先生のお二人の記念講演でした。

日野原重明先生は1941年に聖路加国際病院に就職された時から、その後の留学時代を含め、米国から様々な知見を学ばれた歴史を共有していただきました。赤津晴子先生は健康な日本と肥満社会の米国、多様性を受け入れる米国と画一性を重視する日本を対比させながらの興味深いお話でした。

後半の記念祝賀会では、財団の顧問である黒川清先生の檄を聞きながら、多くの関係者やフェローが財団に関する思い出や近況報告や将来に期待することなどを話し合いながら楽しいひと時を過ごしました。

今後とも皆様のご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

25周年記念会式次第

2013年7月20日（土）16:30 ～ 20:30　於：国際文化会館

第1部　記念式典

来賓祝辞
- 厚生労働省医政局長　原　徳壽
- 横須賀リサーチパーク研究開発推進協会会長　甕　昭男
- 日米教育委員会事務局長　デビッド・サターホワイト

財団紹介、感謝状贈呈

第2部　記念講演

「日本の医療の国際化に向けて」
聖路加国際メディカルセンター理事長　　日野原　重明

「日本の良さ、アメリカの良さ」
～ 20年間のアメリカ医療生活から学んだ事～
スタンフォード大学内分泌内科准教授　　赤津　晴子

第3部　記念祝賀会

2013年度 JANAMEFフェロー決定

Scholarship

A項－留学助成

金　谷　恵理子
佐賀大学医学部卒、京都大学大学院医学研究科/京都大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科
研修先／分野 Yale School of Medicine, Department of Surgery, Otolaryngology（Laboratory Associate）
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

神　尾　明　君
九州大学医学部卒、
北九州市立医療センター心臓血管外科
研修先／分野 The Department of Cardiac Surgery, Austin Hospital（Clinical Fellow）
心臓血管外科

堀　川　雅　弘
防衛医科大学校医学教育部卒、
防衛医科大学校放射線医学講座
研修先／分野 Dotter Interventional Institute, Oregon Health and Science University（Clinical Fellow）
放射線科、インターベンショナルラジオロジー

宮　本　京　介
筑波大学医学専門学群卒、
東京都済生会中央病院呼吸器内科
研修先／分野 University of Hawaii（Resident）
内科

川　北　哲　也
金沢大学医学部卒、在沖縄米国海軍病院産婦人科
研修先／分野 Medstar Washington Hospital Center（Intern）
産婦人科

高　橋　英　雄
神戸大学医学部卒、横須賀米海軍病院
研修先／分野 Cleveland Clinic Foundation（Resident）
一般外科

三　隅　田　尚樹
三重大学医学部卒、横須賀米海軍病院
研修先／分野 Beth Israel Medical Center（Resident）
内科、循環器科

山　口　典　宏
大阪市立大学医学部卒、
ベスイスラエルディコネス病院血液・腫瘍内科
研修先／分野 Beth Israel Medical Center（Resident）
内科（血液・腫瘍内科）

医学部夏期集中医学英語研修助成者

稲　垣　知　希
名古屋大学5年

田　中　友　梨
京都大学5年

西　山　一　聖
大阪大学6年

アメリカ短期看護研修助成者

一ノ瀬　覚子
サイトサポート・インスティチュート株式会社

奥　秋　幸　子
東京都立多摩総合医療センター

加　藤　玲　子
名古屋大学医学部附属病院

金　子　安紗美
自治医科大学附属さいたま医療センター

塩　谷　一　恵
福岡徳洲会病院

長　坂　洋　子
湘南鎌倉総合病院

中　澤　美和子
湘南鎌倉総合病院

中　村　郁　代
京都大学病院

中　山　美　加
湘南鎌倉総合病院

三　浦　美智子
滋賀医科大学医学部附属病院

本　岡　芳　子
滋賀医科大学医学部附属病院

吉　澤　宏　美
桐生厚生総合病院

（注）50音順・敬称略

2013 団体助成セミナー（1）

第50回日本小児外科学会学術集会

日時：第1日目　2013年5月30日（木）
　　第2日目　2013年5月31日（金）
　　第3日目　2013年6月 1日（土）
場所：京王プラザホテル
主催：日本小児外科学会
後援：公益財団法人
　　日米医学医療交流財団

会長／岩中　督（東京大学大学院医学系研究科小児外科）

今回のテーマは、第50回大会であることを鑑み「エビデンスに基づいた小児外科医療の継承：新たなる50年へのアプローチ」として、今日に至る50年を振り返るとともに、小児外科医療のさらなる発展をめざす会にするため、諸外国から大勢のゲストをお呼びして盛大に開催した。

当日は、過去最多の1,161名もの参加をいただき、盛会裡に終了した。

最終演題数は695題（当日取り下げ分を除く）で、内訳は以下の通りである。

・オーラル：224題
　記念座談会、会長講演、理事長講演、
　招待講演、教育講演：9題
　シンポジウム、パネル、ワークショップ、
　国際パネル他：215題
・ポスター：471題
※国際関係（参加者の国籍：27か国）
　国際パネルディスカッション：27題
　国際セッション：14題
　国際ポスターセッション：48題
・スポンサードセミナー：14セッション、17演題

また、学会50周年にあたって、学会前日の5月29日には、50周年記念式典および50周年記念祝賀会を開催した。式典には、文部科学大臣、厚生労働大臣（代理：厚生労働省医政局長）、関連各学会理事長のご出席・ご祝辞をいただいた。

記念すべき第50回学術集会を盛会裡に終了できたことに深く感謝申し上げる次第である。（岩中）

2013 団体助成セミナー（2）

第31回日本肥満症治療学会学術集会

日時：第1日目　2013年6月28日（金）
　　第2日目　2013年6月29日（土）
場所：学術総合センター
主催：日本肥満症治療学会
後援：公益財団法人
　　日米医学医療交流財団

会長／瀬戸　泰之（東京大学大学院医学系研究科消化管外科学・代謝内分泌外科学）

「肥満症に対する集学的治療の確立・普及を目指して」というテーマのもとに、300名の医療職が集まり、6月28日、29日と充実したプログラムを無事終了しました。

本学術集会の特徴は、医師（内科、外科、精神科など）、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどの多くの職種の方々に参加いただいたことと考えております。

医療現場においては、肥満症治療は多岐にわたり、内科的治療、外科的治療の役割、食事指導等の生活習慣の改善、また、それらに係る各職種の役割が明確になっているとなかなか言い難い状況があります。そこで、今回は「集学的治療」をキーワードとさせていただきました。それぞれの治療の特性や限界を認識していただき、チームワークとしての肥満症治療、すなわち集学的治療の必要性、重要性を認識していただけたと思います。

今回は「集学的治療」を学んでいただくために、ご自分が担当されている領域以外のことを十分知っていただく目的で、主会場はひとつとし、そこにいていただくだけで、肥満症治療に係るすべての領域が学べる構成としました。また、ポスターセッションも設け、両日を通じ、多くの方が取り組まれている様々な研究について皆さんに知っていただくことができました。

厚生労働省国民健康・栄養調査によりますと、肥満者割合は増えており、今後欧米並みの問題になっていく可能性があります。そのような状況下、本学術集会の意義は益々重要となっていくものと考えます。（瀬戸）

2013 団体助成セミナー（3）

第13回呼吸療法セミナー in湘南

大会長／渡部　和巨（湘南鎌倉総合病院副院長、米国呼吸療法学会国際部会日本責任者）

日時：第1日目　2013年7月13日（土）
第2日目　2013年7月14日（日）
場所：湘南藤沢徳洲会病院
主催：日本医工学治療学会呼吸器分科会
後援：公益財団法人日米医学医療交流財団
特定非営利活動法人
日本呼吸ケアネットワーク

Lonny Ashworth教授を招聘して、短期間ではあるが、米国の呼吸療法士が受けている実践的教育を受けてもらい、認定士の質向上ができればと始めたこのセミナーも今回で13回目を迎えました。参加者のレベルも高く総合評価で高得点が目白押しで皆せめぎ合っています。

この会は2006年からNational Board for Respiratory Care（NBRC）から認定されています。日本でも呼吸ケアチーム加算が付き、看護協会認定慢性呼吸器疾患看護が認定看護師のひとつに加わり、2013年1月に行われた慢性呼吸器疾患認定審査を経て60名弱の認定看護師が誕生しました。関係医学会６学会（日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会、日本呼吸療法医学会、日本集中治療医学会、日本生体医工学会）が後援し、「呼吸療法専門臨床工学技師認定制度」が2012年からスタートしました。少しずつではありますが、米国の呼吸療法士のようなしっかりしたものに近づいていければと思っています。

3学会合同呼吸療法認定士は、1996年に始まり2013年1月の時点で31,513名の合格者がいます。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会は、新しい制度として呼吸ケア指導士制度という資格を、医師、歯科医師、看護師、準看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士･管理栄養士、薬剤師、放射線技師、言語聴覚士、臨床工学士、臨床検査技師、介護福祉士、その他の呼吸ケア領域で専門職種として活動できる立場の人を対象にして検討し、導入後初級・中級・上級コースを設けてスキルアップを図れるよう計画しています。

対外的には日本の多くの組織を横断的・包括的にまとめた組織すなわち日本呼吸療法学会を作っていきたく、今年こそはその端緒を作る所存です。（渡部）

2013 団体助成セミナー（4）

第10回アジア心臓血管麻酔学会

会長／Prof. Hwang Nian Chih（Singapore General Hospital麻酔科教授）

日時：第1日目　2013年10月3日（木）
第2日目　2013年10月4日（金）
第3日目　2013年10月5日（土）
場所：シンガポール
主催：アジア心臓血管麻酔学会
（10th Meeting of ASCA 2013）
後援：公益財団法人日米医学医療交流財団

第10回アジア心臓血管麻酔学会は、2013年10月3～5日にSingapore General Hospital麻酔科教授のProf. Hwang Nian Chih会長主催のもとに行われた。

アジア心臓血管麻酔学会は故劔物修教授が創立された学会で、2009年は財団理事である野村実が大会長、理事長を務めた。

アジア地区の心臓血管麻酔の発展は驚くべきものがあり、本学会でも経食道心エコー（TEE）の三次元エコーやTEEシミュレーターを駆使した多彩なWorkshopが行われた。

また、財団前会長、現顧問の小玉正智先生が劔物修セッションの司会をされたが、冒頭で日米医学医療交流財団の紹介と劔物先生の貢献を述べられた。

大会には20カ国にのぼる400名近い参加者があり、成功のうちに3日間の幕を閉じた。次回は2015年5月に中国で開催予定である。（野村）

ウエルカムメッセージ

第10回アジア心臓血管麻酔学会は、シンガポールで隔年で開催される第2回目の会議です。1995年に最初の会議がシンガポールで開催されて以来、アジアにおける麻酔科医のさまざまな組織がこのイベントを交替で主催しています。前回の会議の成功を基に、第10回ASCA大会2013は、医療における麻酔科医やパートナーが出会い、学び、アイデアや研究成果を共有し、新たな開発や技術を議論するとともに、新たな友情を確立するために絶好の機会を提供します。

2013 団体助成セミナー（5）

第50回日本小児アレルギー学会

日時：第1日目　2013年10月19日（土）
　　第2日目　2013年10月20日（日）
場所：パシフィコ横浜
主催：日本小児アレルギー学会
後援：公益財団法人
　　日米医学医療交流財団

会長：海老澤　元宏（国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部長）

第50回日本小児アレルギー学会は2013年10月19日（土）・20日（日）にパシフィコ横浜会議センターで開催され、招待者を含めて2,148名が参加した。

1966年の第1回大会からちょうど50回目の大会であり、学会テーマを“For the Next Generation”とし次世代の患者さんや医療従事者のための大会を目指した。

プログラムは日本小児アレルギー学会の主要学術テーマである“気管支喘息”と“食物アレルギー”が重複しないように、また、若い先生方の発表の場に多くの聴講者が集まるように、一般演題を重視し特別プログラムとの重複を最小限とした。第50回記念大会として記念式典、記念誌作成、記念展示等も行った。

一般演題は国内外から日本語169題、英語22題の合計191題の応募があり、ミニシンポジウム・口演・ポスターに分類した。本学会の国際化の一環として初めて英語で一般演題を募集し、アジアの先生方との国際交流を図ることができた。

特別プログラムはシンプルなシンポジウム、プロコンでの議論、研究を意識した次世代向けの教育講演、商業色よりも学術を優先した企業のセミナー・シンポジウム、次世代の先生方が参加しやすいミートザプロフェッサーを企画した。また、研究者、一般臨床医、コメディカルのすべての方がそれぞれのレベルに合わせて参加しやすいように配慮した。

上記企画に沿って優れた発表と活発な討議が行われ、盛会裡に全日程を終えることができた。（海老澤）

2013 団体助成セミナー（6）

日本犯罪学会設立百年記念大会
―第50回日本犯罪学会総会―

日時：第1日目　2013年11月15日（金）
　　第2日目　2013年11月16日（土）
会場：一橋講堂
主催：日本犯罪学会
後援：法務省・警察庁
　　公益財団法人
　　日米医学医療交流財団

大会長／景山　任佐（東京工業大学名誉教授）

日本犯罪学会設立百年記念大会は、「総合犯罪学の構築をめざして――日本から世界に向けた21世紀の犯罪学の展開」をテーマに2日間にわたって開催された。

初日には、日本犯罪学会設立百年記念式典が執り行われ、谷垣禎一法務大臣をはじめ、各界の重鎮のご来駕を賜り、約300人が集い、設立百年を祝福した。谷垣禎一法務大臣からのご祝辞に引き続いて、Serge Brochu国際犯罪学会会長からは犯罪学の重要性と将来について、山岸憲司日本弁護士連合会会長からは弁護士活動への取組みとその基盤としての犯罪学的研究の重要性について、そして、日本犯罪関連学界ネットワークを代表し松村励日本犯罪心理学会会長から各学会の連携と発展について、犯罪被害者を代表して全国犯罪被害者の会（あすの会）の松村恒夫代表幹事から犯罪被害者に対する理解、犯罪被害者の思いを汲んで研究を発展させてほしいという願いを込めてご挨拶を頂戴した。

本大会においては、百年記念大会に相応しい、招聘・記念講演、シンポジウムが実施された。

ひとつは国際犯罪学会との連携強化の一環として、国際犯罪学会会長のSerge Brochu教授をお招きし、臨床犯罪学の現状と将来的課題について講演をいただいたことであった。また、新しい人間学、人間像を模索、探求するための縁とすべく、臨床哲学を提唱している哲学者で人間探求者でもある鷲田清一大谷大学教授（前大阪大学総長）に人間学に関係するテーマで記念講演をいただいた。

シンポジウムでは総合犯罪学、さらには統合犯罪学の構築をめざして、「犯罪学の将来」をテーマに、各分野の中堅どころの先生方に発表していただいた。

第14回
医学留学
セミナー

Going Global? これからの医師・医学研究者にとっての海外留学の意義

日時：2013年10月12日（土）12:30〜17:20
場所：東京医科歯科大学3号館3F
医学科講義室2（湯島キャンパス）

主催：公益財団法人日米医学医療交流財団
共催：東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科・医学部

コーディネーター▶▶▶
田中雄二郎（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　臨床医学教育開発学教授・医学部附属病院長）
伴　信太郎（JANAMEF理事長／名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学教授）
小池　　薫（JANAMEF理事／京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学教授）

2013年10月12日（土）、毎年恒例の医学留学セミナーが東京医科歯科大学（湯島キャンパス）で開催され、50名（うち学生43名）の受講生が参加しました。

田中雄二郎東京医科歯科大学医学部附属病院長と清水一功財団会長のご挨拶ののち、〈卒前留学の意義と課題〉をはじめに、ついで〈卒後臨床留学の意義と課題〉そして〈卒後研究留学の意義と課題〉のセッションが順次執り行われ、6名の演者の方々のお話をうかがいました。

このたびのセミナーの新しい試みは、セッションごとに、20分間の「4、5人ずつのグループでのディスカッション」を行ったことでした。各グループには、留学経験のある20人のファシリテーター（医師16人、医学生4人）が1、2人ずつに分かれて加わりましたが、これがとても有意義で、各グループではさまざまな角度から熱心な討議が繰り広げられました。また、各グループディスカッションのあとには、20分間の「全体での意見共有」の時間を設けましたが、受講生は積極的に手を挙げて、講師の先生に活発な質問をしていたのが印象的でした。最後に、湯浅保仁東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科長と髙瀬義昌財団専務理事の閉会の辞があり、セミナーは盛会のうちに終了しました。受講生のアンケートでも絶賛と有意義の合計が95％と、満足度の高さが裏付けられました。

コーディネーターの大役をお引き受けいただいた田中雄二郎先生、髙田和生先生をはじめ、東京医科歯科大学の皆様に心より感謝申し上げます。（小池）

プログラム

Ⅰ．長期的キャリア形成における卒前留学の意義と課題

【司会】田中雄二郎（東京医科歯科大学医学部附属病院長）
野村　　実（JANAMEF理事／東京女子医科大学医学部麻酔科教授）

●ハーバード大学（米国）でのクラークシップ参加とその意義
【講師】長谷川久紀（東京医科歯科大学医学部附属病院膠原病・リウマチ内科特任助教）

●インペリアル・カレッジ（英国）での研究実習体験とその意義
【講師】片倉　麻衣（諏訪中央病院整形外科）

Ⅱ．長期的キャリア形成における卒後臨床留学の意義と課題

【司会】髙田　和生（東京医科歯科大学国際交流センターグローバルキャリア支援室教授）
伴　信太郎（JANAMEF理事長）

●現在臨床研修（米国）中の私から見た今後のキャリア形成
【講師】野城　加菜（ニューヨーク ベス・イスラエル病院内科レジデント）

●市中病院での診療/教育リーダーへのキャリア形成からみた卒後臨床留学の意義
【講師】本郷　偉元（武蔵野赤十字病院感染症科副部長）

Ⅲ．長期的キャリア形成における卒後研究留学の意義と課題

【司会】湯浅　保仁（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科長・医学部長）
小池　　薫（JANAMEF理事）

●アカデミックなキャリア形成の視点からみた海外大学院博士課程進学の意義
【講師】若林　健二（東京医科歯科大学国際交流センターグローバルキャリア支援室特任助教）

●長期的キャリア形成の視点からみた海外公衆衛生学修士課程進学の意義
【講師】越智　小枝（インペリアル・カレッジ公衆衛生大学院クリニカル・リサーチ・フェロー）

2013年医学留学セミナー アンケート集計結果

50名中37名回収（回収率74%）

全体の感想からもうかがえるように、受講生の満足度の高さが裏付けられたセミナーとなりました。アンケート結果では「絶賛」と「有意義」の合計は95%にまで及んでいます。一方、いくつかの点で今後の課題も見えました。

1. 役　　職

（1）医師 4名（11%）
（2）医学生 33名（89%）（うち6年 4名、5年 12名、4年5名、3年 11名、2年 1名）

2. 参加した意義

5	4	3	2	1
絶賛 15名	有意義 20名	普通 2名	改善の余地あり	参加しない方がよかった

3. 全体の感想

- 海外留学経験者や留学希望学生と交流できてよかった。
- 貴重な情報が得られた。
- モチベーションを高めることができた。
- 将来の不安が多少なりとも払拭できた。
- 留学のメリット、デメリットについて詳しく知ることができた。
- 実際のresidencyにマッチした話が聞けてよかった。
- 卒前留学に関して他の大学の話が聞けてよかった。
- 卒後臨床留学の話が興味深かった。
- 改めて臨床留学実習に挑戦しようと思った。
- 具体的な話やいろいろな意見が聞けてよかった。
- とても参考になる内容だった。
- 質問が多くできてよかった。

4. 今後の留学希望（複数回答）

(1) 臨床研修　18名 (27%)
(2) 臨床実習　13名 (19%)
(3) 基礎研究　13名 (19%)
(4) 臨床研究　11名 (16%)
(5) 大学院　6名 (9%)
(6) 語　学　3名 (4%)
(7) 目的基礎配属　2名 (3%)
(8) MBA／MPH　1名 (1%)

5. 留学に際し困ること（複数回答）

(1) 経済面　10名 (26%)
(2) 言　葉　8名 (21%)
(3) 情　報　4名 (10%)
(4) 帰国後のキャリア　3名 (8%)
(5) 留学先　2名 (5%)
(6) 文化の違い　2名 (5%)
(7) コネクション 2名 (5%)

6. 今後取り上げてほしいテーマ、内容

- 英語学習法
- 基礎研究留学
- 海外から見た日本の医療
- 外科系の留学体験
- 家庭医療に関しての米国留学
- 臨床留学セミナー
- Fellowship留学
- 歯学生向けのもの
- 卒前・卒後留学に関しいろいろな大学の話を聞きたい
- 女性医師のキャリアパス
- 女性の先生が子育てと留学をどう両立したか
- 海外大学院で臨床研究でPhDを取得された先生の講演
- 海外の病院のSummer Schoolなどの留学プログラムの紹介など
- USMLEについて
- KAPLANから講師を招いてUSMLE対策のoverviewを開いてほしい

7. その他意見等

- 世界や日本を米国以外の国から見てみることも必要だと思う。
- 講演者が特定大学の出身ばかりだった。
- もっと低学年のうちに参加してみたかった。
- 財団についてもう少し詳しくうかがいたかった。

● 2014年医学留学セミナーのご案内

To Go or Not to Go: 医師の海外留学

日時：2014年10月25日（土）12:30〜18:00（11:30受付開始）
会場：東京慈恵会医科大学西新橋校 大学棟1号館3階講堂
主催：公益財団法人日米医学医療交流財団
共催：東京慈恵会医科大学

［本セミナー開催の趣旨］

このセミナーでは、海外留学の魅力・成果というポジティブな面だけでなく、海外留学中や帰国後の苦労の実情にせまるために、演者の先生方に海外留学の“語られない”部分を腹蔵なく語っていただく予定です。「若いうちの苦労は買ってでもするもの」という言葉がありますが、医師の海外留学は果たしてそうなのか、本セミナーを通して皆で考えてみませんか。多くのかたの参加をお待ちしています。

●コーディネーター

上園　晶一（東京慈恵会医科大学麻酔科学講座教授）
小池　　薫（JANAMEF理事／京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学教授）

［参加申込み・問合せ先］ **公益財団法人日米医学医療交流財団**
※財団HP「セミナーのお知らせ」のお申込フォームに必要事項を入力の上お申込みください。

JANAMEFフェローレポート

ハワイで感じたYes、We Can! 次のステップ目指して!

2013年医学部夏期集中医学英語研修プログラム研修報告

本プログラムは、アメリカでの臨床留学を志す日本の医学部出身者が増加している中で、医学英語やケースプレゼンテーションを集中的に上達させるとともに、グローバルな視野を広げる機会を提供し、臨床留学や海外実習参加に必要な能力の育成を目的としています。財団の助成者からの研修報告を掲載します。

研修期間：2013年8月14日（水）～21日（水）（8日間）
研修場所：Hawaii Tokai International College（HTIC）
主催：Hawaii Tokai International College（HTIC）
協力：神戸大学医学部、東海大学医学部

医学英語を学ぶことの大切さを再認識

稲垣 知希（名古屋大学医学部 5年）

プログラムの内容は多岐にわたっており、どれ一つとっても非常に素晴らしいものばかりでした。ハワイ大学医学部生を交えて米国流の問診を行い、先生方へフィードバックするというClinic Practiceでは、回数を重ねるにしたがい自然に聞けるようになるとともに、自分のプレゼンテーションも改善を実感できるようになりました。

特に印象的であったのが、聖ルカ・クリニック訪問で、そこではハワイ大学でレジデントとして働く日本人医師の話を聞く機会がありました。日本にいると海外で医師として働くということはとても遠いものとして感じられますが、実際に海外で働く医師の話をうかがうことができ、そのような選択肢も一つの現実的な選択として考えられるまたとない機会となりました。

当プログラムを通じて、医学英語に対する視野をさらに広げたいとの志望動機は十分に達成されたと思います。何より医学英語を勉強することの大切さを改めて再認識でき、帰国後も英語への関心が研修前よりも明らかに高まったと実感しています。

ハワイという素晴らしい環境のもとでのこのような得がたい経験は、日米医学医療交流財団のご支援と尽力を頂戴して初めて実現できたものです。この場を借りて深く感謝申し上げます。

失敗を恐れずとにかく積極的になる

西山 一聖（大阪大学医学部 6年）

プログラムの初めの頃、特に初日はとても憂鬱で不安でした。しかし、2日目朝のDr. Littleの講義で“My class is the place to make a mistake”と言われたとき、肩の力が一気に抜け、不安がなくなっていくのを感じました。わざわざ研修のためにハワイまで来たのだから、少しでも多く何かを学んで持ち帰らなければいけないと気持ちが変わりました。それ以降、失敗を恐れずとにかく積極的になることに心掛けました。立候補できるものはすべてに立候補しました。最終日のFarewell Partyでも日米医学医療交流財団派遣生代表としてスピーチをしました。本当に充実した1週間で、このプログラムに応募してよかったと心の底から思います。

しかし、この研修はゴールではありません。この1週間を本当に意味あるものにするためには帰国後どうするかが大切です。今まで進めてきた医学英語の勉強を、USMLEに向けてもっとintenseにしようと考えています。また、先生方にアドバイスいただいた情報源を頼りつつより具体的な情報収集をしてゆきます。貴重な経験・きっかけを与えてくださった本プログラムと私を派遣してくださった日米医学医療交流財団に感謝いたします。

医学医療交流セミナー

地域包括ケア時代における医療と介護

日時：2014年1月19日（日）13:30 ～ 17:00　　主催：公益財団法人日米医学医療交流財団
場所：東京医科歯科大学M&Dタワー 2階

コーディネーター ▶▶▶
髙瀬　義昌（JANAMEF専務理事、医療法人社団至高会理事長）

米国他にある家庭医学のノウハウは、まだまだ日本の在宅医療に活かされていない現状にある。また、逆に家庭医学をある程度学んだとしても、日本の在宅医療現場では制度上の違いから使い物になるとは言えない現状もある。

Ⅰ部では、金井貴夫氏に診察現場における心理アプローチ、特に家庭医学（診断推論）から治療起点及び行動変容に至るサイコセラピー（心理療法）の重要性・可能性について例をあげてお話いただき、東京における在宅医療の先駆者たる英裕雄氏には、金井氏のお話を受けて、日本の在宅医療の現状と課題をお話いただいた。

Ⅱ部では、高齢者の住宅問題に先駆的に取り組まれている高齢者住宅新聞社の網谷敏数氏に、介護施設側に立った、医療に対する期待と現状のギャップについてお話いただき、全国各地の医療・介護への取り組みをICTで支えられているカナミックネットワークの山本奨氏には、これからの多職種協働とICT活用の可能性についてお話いただいた。Ⅱ部の座長である湖山泰成氏は、北は北海道から南は島根県に至る全国各地で高齢者施設を運営されている。医療に論理と倫理があると同様に、介護にも論理と倫理があるというまとめは、とても深い言葉である。

医療と介護の壁をブレークスルーできるきっかけになることが本セミナーの目標の一つであったが、それぞれの分野で意識の高い演者が揃い、刺激的なディスカッションが行われた。このテーマを医療経済的な問題解決にまで発展させて今後も議論を続けたい。（髙瀬）

講演者紹介 ▶▶▶
金井　貴夫（筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター／茨城県厚生連総合病院水戸協同病院総合診療科長）
英　裕雄（医療法人社団三育会理事長）
湖山　泰成（湖山医療福祉グループ代表）
網谷　敏数（株式会社高齢者住宅新聞社代表取締役社長）
山本　奨（株式会社カナミックネットワーク取締役会長）

広げようJANAMEFネットワークを

～第1回JANAMEF賛助会員交流会報告と次回のご案内～

日米医学医療交流財団では、当財団を支えていただいている皆様の情報交換・交流会を定期的に催しております。2014年3月15日開催の「第1回JANAMEF賛助会員交流会」には、約160名の方々が参加くださいました。当日は、当財団の顧問の一人である黒川清先生に、「今日本の医療人に求められていること」と題して医学・医療の国際交流が進むべき道について講演いただきました。また、当財団の伴信太郎理事長からは当財団の活動状況と諸課題について報告をさせていただきました。

次回の交流会は次のとおり開催します。当日は留学から帰国し日本の医学・医療を先導するJANAMEFフェローの方々から貴重な報告をいただく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

第2回JANAMEF賛助会員交流会のご案内

日　時：2014年10月4日（土）
18：00 ～（受付 17：30 ～）
会　場：日本教育会館9F 喜山倶楽部
東京都千代田区一ツ橋2-6-2
TEL：03－3262－7661
参加費：1万円（当日徴収）
お問い合わせ先：
公益財団法人 日米医学医療交流財団
E-mail：info@janamef.jp
ＴＥＬ：03-6801-9777
ＦＡＸ：03-6801-9778

私たちは、JANAMEFを応援します

Donation

2013年4月1日より2014年3月31日までにご支援くださった団体寄附・団体賛助会員は以下の方々です。厚くお礼を申し上げます。医学・医療の国際交流のため有効に使わせて頂きます。（50音順・敬称略）

JANAMEFの事業を応援いただいた団体寄附・団体賛助会員一覧

アイ・エム・アイ㈱
㈫葵会
アジア・アライナンス・ホールディングス㈱
アトムメディカル㈱
㈱栄光
㈻大阪医科大学
小野薬品工業㈱
㈻片山学園
㈱カナミックネットワーク
共栄興産㈱
建装工業㈱
港洋リース㈱
サクラグローバルホールディング㈱
㈫至高会たかせクリニック
清水建設㈱関東支店
㈫秀仁会
昭和電工㈱
社会医療法人信愛会
㈫仁愛会浦添総合病院
㈱シンコー
㈫生全会池袋病院
㈫成和会
泉工医科工業㈱
㈫蘇西厚生会松波総合病院
第一三共㈱
大研医器㈱
大正富山医薬品㈱
大日本住友製薬㈱名古屋支店
㈫高須クリニック
たんぽぽ薬局㈱
チェスト㈱
月電工業㈱
㈱ツムラ
㈱TKB
公益財団法人テルモ科学技術振興財団
公益財団法人天理よろづ相談所病院
㈻東京女子医科大学
トウショウ産業㈱
東邦警備保障㈱
東洋リネンサプライ㈱
㈫徳洲会東京本部
トヨタカローラ三重㈱
㈱トラベルパートナーズ
㈱ドリームエクスチェンジ
二プロ㈱長野営業所
二プロ㈱西日本営業部
公益社団法人日本看護協会
日本光電工業㈱
公益社団法人日本薬剤師会
ノーザンファーム（吉田勝己）
㈫白報会
橋本市民病院
久光製薬㈱名古屋支店
㈲ビッグレッドファーム
フィールズ㈱
フレゼニウスカービジャパン㈱
㈱分子栄養学研究所
㈱前田・アンド・アソシエイツ
丸石製薬㈱
㈱マルム商会
㈱メディカルアソシア

ご寄附、賛助会費のお願い

本財団の事業は、各位の絶大なご厚情・ご協力に支えられており、皆様のご支援なくしては所期の目的を達成できません。本財団は2012年8月に公益財団法人に移行し、ご寄附及び賛助会費に対しては免税措置が講じられますので、なにとぞ格段のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

事務局だより

Activities

第3回賛助会員交流会のお知らせ

詳細は未定ですが、次のとおり第３回日米医学医療交流財団賛助会員交流会の開催を予定しております。皆様には、別途ご案内申し上げますので、万障繰り合わせてご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2015年３月14日（土）18:00～
（受付17:30～）
場所：日本教育会館9F 喜山倶楽部
東京都千代田区一ツ橋２-６-２
ＴＥＬ：03－3262－7661

平成26年度 事業計画書 （2014年4月1日～2015年3月31日）

1．４月１日　平成26年度賛助会費及び寄附金の依頼
2．役員会
　1）５月17日（土）16:00～18:00
　　平成26年度第1回評議員会・理事会（於：東京）
　2）10月４日（土）16:00～18:00
　　平成26年度第2回評議員会・理事会（於：東京）
　3）３月14日（土）15:00～17:00
　　平成26年度第3回評議員会・理事会（於：東京）
3．委員会
　1）６月　企画予算委員会（於：東京）
　2）７月　学術委員会（於：東京）
　3）11月　企画予算委員会（於：東京）
　4）12月　学術委員会（於：東京）
　5）１月　企画予算委員会（於：東京）
　6）２月　学術委員会（於：東京）
4．個人助成
　1）４月26日（土）
　　平成26年度JANAMEF留学助成（A項・B項）の選考委員会（於：東京）
　　平成26年度環太平洋アジア基金留学助成の選考委員会
　2）８月　医学部夏期集中医学英語研修の助成（於：米国ハワイ）
　3）10月12日（日）～18日（土）
　　第11回アメリカ看護短期研修の助成（於：米国オレゴン）
　4）３月31日（火）
　　平成27年度JANAMEF留学助成（A項・B項）の応募締切り
　　平成27年度環太平洋アジア基金留学助成の応募締切り
5．団体助成
　1）５月８日（木）～10日（土）
　　第51回日本小児外科学会学術集会（於：大阪）
　2）７月４日（金）～５日（土）
　　第32回日本肥満症治療学会学術集会（於：滋賀）
　3）７月19日（土）～20日（日）
　　第17回日本臨床脳神経外科学会（於：東京）
　4）７月19日（土）～20日（日）
　　第14回呼吸療法セミナー in湘南（於：神奈川）
　5）９月19日（金）～20日（土）
　　第29回日本乾癬学会学術大会（於：高知）
　6）10月11日（土）～12日（日）
　　第40回日本体外循環技術医学大会（於：広島）
　7）11月１日（土）～３日（月）
　　第34回日本臨床麻酔学会（於：東京）
　8）11月15日（土）
　　第20回日本最小侵襲整形外科学会（於：栃木）
　9）11月８日（土）～９日（日）
　　第51回日本小児アレルギー学会（於：三重）
　10）12月20日（土）～21日（日）
　　第18回日本統合医療学会（於：神奈川）
　11）３月５日（木）～６日（金）
　　第51回日本腹部救急医学会総会（於：京都）
6．セミナー
　1）６月７日（土）～８日（日）
　　JANAMEF臨床研究トレーニングコース（初級）（於：長野）
　2）10月25日（土）
　　“医学留学セミナー”（於：東京・東京慈恵会医科大学）
　3）１月　財団主催セミナー
7．時期未定　茨城県の指導医海外派遣事業（於：米国ハワイ）
8．10月４日（土）18:00～
　全賛助会員交流会（於：東京）
9．３月14日（土）18:00～
　全賛助会員交流会（於：東京）
10．出版物の発行
　1）８月　JANANEFニュース発行
　2）10月　「医学留学へのパスポート」の発刊
　3）２月　JANAMEFニュース発行
11．厚生労働科学研究の推進事業について
　地球規模保健課題推進研究推進事業（国際医学協力研究）
　①外国人研究者招へい事業
　②外国への日本人研究者派遣事業
　③国際共同研究事業
　④研究成果等普及啓発事業

編集後記

財団は昨年25周年を迎え、役員・執行部も新体制となり、また、昨年から今年にかけて事務局体制も一新しました。財団に課せられた使命は、財政基盤の安定化を図りつつ、公益財団法人として「公益活動」を担っていくことを肝に銘じ、仕事に精励して参る所存です。現在、財団の情報発信機能の強化に向けてHPの刷新に取り組んでいるところです。会員の皆様には、URLの変更などで大変ご迷惑をおかけしましたが、ご期待に沿えるよう内容の充実を図っていきたいと思いますので、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。（事務局長　坂上正人）